

令和 6 年 5 月 15 日現在

機関番号：37111

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K01092

研究課題名（和文）日中韓の民俗学の知的布置に関する基礎的研究 民俗学教育における教科書分析を中心に

研究課題名（英文）Introductory research on the intellectual arrangement of folklore in Japan, China, and Korea - Focusing on folklore textbook analysis

研究代表者

田村 和彦（TAMURA, Kazuhiko）

福岡大学・人文学部・教授

研究者番号：60412566

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：東アジア三か国の民俗学研究においては、最先端の論考が紹介される機会が増加しつつある一方で、学知を産出している背景や隣接諸学問との関係という民俗学そのものが埋め込まれている各国の状況が十分に考察されてこなかった。

本研究は、大学の民俗学教育で用いられる教科書に相当するテキストを収集、分析することで日中韓三か国におけるこの学問の位置づけについての一側面を明らかにすることを試みた。

日本については教科書収集とシラバス分析から、中国については主要テキストを8つのトピックから分析することで、韓国についてはアンケートなど多様な資料と概説書、入門書の記述分析を通じて、それぞれの民俗学の特色を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果によって、日中韓の民俗学の埋め込まれた背景や歴史学、文学、社会学など関連する学問分野との関係、社会的に期待されている学術方向の一端を明らかにすることができた。その結果、今後の日中韓の民俗学の学術交流における地ならしをある程度行うことができたとともに、背景の差異と共通する問題群の存在、すなわち、それぞれの国情の影響を受けつつ継続的に生産されている学知の動態を相互に俯瞰する状況を構築したことで、それぞれの民俗学の研究の重点や蓄積を把握し、他方で今日的状況のなかで直面する問題には類似、あるいは共通の問題群が含まれていることを確認した。この点が本研究の学術的意義である。

研究成果の概要（英文）：In folklore studies in the East Asian countries, opportunities to introduce new and cutting-edge essays are increasing, but understanding about bases such as the background of producing academic knowledge and the relationship with other disciplines, that still isn't enough.

In this study, we collect and analyze to textbooks used in university folklore studies education, attempted to clarify one aspect of the positioning of this discipline in the three countries of Japan, China, and South Korea. Specifically, for Japan, we analyzed syllabuses and textbooks, made clear the tendency of Folklore studies. For China, we analyzed major texts based on eight topics, and for South Korea, we analyzed each influential folklore overview books and primary books. through this work, we revealed each characteristics in Japan, China and South Korea.

研究分野：文化人類学、民俗学

キーワード：文化人類学 民俗学 日本研究 中国研究 韓国研究

1. 研究開始当初の背景

本研究を計画した時点で、東アジアにおける民俗学的交流はすでに長期にわたって継続されてきたが、近年とくにその機会は増加していた。およそ過去10年を取り上げても、学会誌「海外の現代民俗学東アジア編」(『日本民俗学』No.259、2009年)、「アメリカと中国の民俗学のフロントライン」(『日本民俗学』No.273、2013年)、「無形文化遺産政策のホットスポット・中国、中国民俗学の経験から学ぶ」(『日本民俗学』No.279、2014年)など数多くの特集が組まれてきた。また、学会主催のシンポジウムについても、「さらば民俗学 新しい民俗学の再構築」における韓国特集(第847回談話会、2010年)、国際シンポジウム「“当たり前”を問う 日中韓・高層集合住宅の暮らし方とその生活世界」(成城大学、2014年)、同「民俗から考える東アジア世界の現在」(福岡大学、2016年)など、学会以外の主催であっても国際シンポジウム「ポスト帝国の文化権力とヴァナキュラー:民俗学から日常を問う」(韓国:翰林大学校、科研基盤研究B「<日常学としての民俗学>の創発性」による、2019年)など、東アジアにおける民俗学の共通理解を構築するための努力がなされてきている。本研究申請時にはまだ公開されていなかったが、2021年には京都大学人文科学研究所編『人文學報』118号において「東アジアの民俗学:歴史と課題」の特集が組まれた。この特集は日中韓の民俗学を俯瞰する優れたものだが、このことから、本研究申請時に東アジアの民俗学的状況を整理、紹介する動向があったことを示すことができる。

2. 研究の目的

上記の状況にあって、本研究では、先端的論考の紹介やそれぞれの民俗学の歴史を取り上げるのではなく、当該社会内において如何に民俗学が教授、紹介されているのか、民俗学自身から歴史学や、文学、社会学などの隣接諸科学との関係がどのように説明されるのか、といった民俗学が埋め込まれている状況を明らかにすることを目的とした。

このために、中国の民俗学に通暁する周星、韓国の民俗学に造詣が深く多くの関連する業績を有する金広植と、日本の民俗学の教科書作成に携わった田村和彦で研究チームを組むことで、この研究課題に取り組む体制を整えた。

具体的には、高等教育機関において民俗学はどのように教育されているのかを検討し、教科書およびそれに類するテキストを収集、分析することで、この目的を達成するための初歩的作業を実施することを試みた。

この手法を可能とする背景としては、近年の民俗学教科書あるいはそれに類するテキストが相次いで刊行されている状況がある。いくつかの例を挙げれば、日本においては研究申請時には、高岡弘幸ほか(編)『民俗学読本-フィールドへのいざない』(2019年)、桑山敬己ほか『文化人類学と現代民俗学』(2019年)、島村恭則『民俗学を生きる ヴァナキュラー研究への道』(2020年)、同『みんなの民俗学』(2020年)などが相次いで刊行され、その後も岩本通弥ほか編『民俗学の思考法』(2021年)、菊地暁『民俗学入門』(2022年)、島村恭則編『現代民俗学入門』(2024年)など、この潮流は現在まで続いている。韓国においても近年、尹炳和『学芸士のための民俗学』(2017年)、姜正遠ほか編『民俗学の第一歩』(2022年)など教材として使われるテキストが刊行されており、中国でも邢莉編『民俗学概論新編』(2016年)、王娟『民俗理論教程』(2018年)など、同様の傾向がみられる。

このことから、本研究では、日中韓の民俗学の交流をそれぞれ相互的かつ立体的に構築してゆくための初歩的作業として、東アジアにおける民俗学の自己認識と社会的布置を検討した。その手法として、各国の高等教育機関で使用されている民俗学の教科書およびそれに相当する出版物を収集し、分析を加えることで、日本・中国・韓国における民俗学の自己説明様式の分析、上記三か国における、隣接諸科学との関係性における各地の民俗学の状況の2点を中心に考察することを目的とした。この作業を通じて東アジア三か国における民俗学の共通項、その認識の差異の一端を明らかにし、今後の学術的交流の新たなプラットフォームを構築する一助となることを目指した。

3. 研究の方法

本研究では、これまでほとんど行われてこなかったアプローチをとるものであり、まず、日中韓それぞれの民俗学教育で用いられる教科書あるいはそれに類するテキストを収集することから着手した。

そのうえで、三か国の教育状況の差異を踏まえつつ、それぞれの地域で主要なテキストを比定し、分析を加えた。

日本については、各大学がシラバスを公開していることから、田村が1)日本民俗学会のホームページに掲載された「民俗学専門教育機関データベース」に登録された52大学の全シラバスのうち、「民俗」の語彙がみられる授業を抽出し、授業名、キーワード、使用教科書、参考書などの情報をデータベース化した。そのデータから使用頻度の高い教科書、参考書をそれぞれ明らかにし、その構成について分析を加えた。

中国については、シラバスが公開されていないことから、周は大学教育で用いられる教科書、教材を可能な限り収集し、そのうちの主要な22点の教科書について「民俗分類論」、「民俗認知論」、「民俗史」、「学科論」、「資料論」、「方法論(調査論、研究倫理論を含む)」、「民俗学史」、「民俗学理論(キーワード、学説、学派など)」の8つの基準を設けて各教材の記述がどのように構成され、記述されているのかを分析した。また、田村は、全国の民俗学教育機関の調査報告(董曉萍ほか、2012年)の検討、それを補正するために全国の民俗学に関する学位授与を基準として抽出した大学院、および各教育機関による大学院二次試験のための指定参考書を収集することで、主要なテキストを考察した。

韓国については、シラバスが対外公開されておらず、「民俗学にかかわる講座」を抽出、検討することが困難な状況にあって、金広植により以下の一連の研究が進められた。まず、実践民俗学会会員へのアンケート調査を実施するなどしてデータを収集し、また、オンライン書店での販売実績など多様な資料を駆使することで韓国における民俗学の教科書的なテキストをめぐる相貌を明らかにした。さらに、民俗学概説書の調査検討、および比較民俗学会学会誌『比較民俗学』の特集「各国の民俗学概説書の体制と内容の比較研究」(2016年)に寄せられた論考の精査、とくに南根祐「韓国民俗学概説の問題点」論文に注目し、その視点を紹介することで韓国民俗学の概説をめぐる問題点を明らかにした。

4. 研究成果

上述のように、それぞれの地域の民俗学教科書、教材として使われる概説書を抽出、収集、分析することで、先端的議論の紹介や論考の翻訳、国際シンポジウムの開催といった学術交

流といった手法からは明らかにできなかった、日中韓それぞれの民俗学の傾向性や社会的
布置、自己説明の様式をある程度明らかにすることができた。

また、教科書および概論書が使われる文脈に視野を広げることで、従来とは異なる角度か
ら高等教育機関における三か国の民俗学の位置づけについて、歴史学、文学との関連、学芸
員などの資格との関係やフィールドワークへの期待や「地域学」としての側面など、多くの
論点を析出することができた。

日中韓の民俗学に関する教科書や概論を比較する試みはまだ始まったばかりであり、そ
の意味では本研究は新機軸を打ち出した点で学術的意義が認められる、と考える。

なお、本研究の具体的な成果については、それぞれ日本民俗学会年会、華東師範大学「城
市社会と文化」フォーラム、比較民俗研究会などで口頭発表の形式で公開してきたが、研究
全体を統合した全体的な論考としては、2024 年度に比較民俗研究会『比較民俗研究』誌上
において公開される予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計28件（うち査読付論文 16件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 田村和彦	4. 巻 12
2. 論文標題 中国語訳『世相篇』からみた翻訳困難さに関する一試論: 翻訳書表題の語彙を手掛かりとして	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『日常と文化』	6. 最初と最後の頁 51-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.50949/edl.ac.12.0_51	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田村和彦	4. 巻 13
2. 論文標題 解題: 余イ「古物」と「文物」のはざままで 中国民俗学史における「物」へのまなざし(1923-1982)	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『日常と文化』	6. 最初と最後の頁 29-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.50949/edl.ac.13.0_29	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田村和彦	4. 巻 11
2. 論文標題 解題 岳永逸「風俗と民俗 中国の現代民俗学における史的性質と民族性」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『日常と文化』	6. 最初と最後の頁 95-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.50949/edl.ac.11.0_95	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田村和彦	4. 巻 11
2. 論文標題 解題 周星「物質文化研究の局面と民具学の中国における展開」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『日常と文化』	6. 最初と最後の頁 77-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.50949/edl.ac.11.0_77	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 周星	4. 巻 1
2. 論文標題 尊重基本事実、依托資料立論	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『中国非物質文化遺産』	6. 最初と最後の頁 106-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 周星、黄潔	4. 巻 37
2. 論文標題 中国の文化遺産に関する人類学的研究	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『比較民俗研究』	6. 最初と最後の頁 24 - 79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 周星	4. 巻 書籍の一部
2. 論文標題 序文：「『複数』の民俗学」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 岳永逸『終始：社会学的民俗学（1926-1950）』への序文 (ISBN978 - 7 - 303 - 27279 - 2)	6. 最初と最後の頁 1 - 16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 周星	4. 巻 論文集
2. 論文標題 「非物質文化遺産保護運動和中国民俗学 - 『公共民俗学』在中国的 possibilities 与 危险性」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 康麗編：『非物質文化遺産学术精粹・理論卷』	6. 最初と最後の頁 365 - 382
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 周星	4. 巻 1
2. 論文標題 「関注世事変遷、追問生活革命的民俗学」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『民間文化論壇』	6. 最初と最後の頁 5-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 周星(訳 黄潔)	4. 巻 11
2. 論文標題 「物質文化研究の局面と民具学の中国における展開」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『日常と文化』	6. 最初と最後の頁 51 - 76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.50949/edl.ac.11.0_51	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 周星	4. 巻 159
2. 論文標題 「新型城镇化与乡愁」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『愛知大学国際問題研究所紀要』	6. 最初と最後の頁 3 - 18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金広植	4. 巻
2. 論文標題 朝鮮青年社刊行の朝鮮童話集・昔話集に関する研究 許南麒(許集)を中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『Walpurgis: 國學院大學外国語文化学科紀要』	6. 最初と最後の頁 55 - 74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.57529/0002000037	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金広植	4. 巻 55
2. 論文標題 在日朝鮮人作家、李錦玉の『りんごのおくりもの』に関する考察	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『学芸国語国文学』	6. 最初と最後の頁 190 - 199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金広植	4. 巻 41
2. 論文標題 1990年代以降に展開された口碑文学史研究に対する再検討	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『実践民俗学研究』	6. 最初と最後の頁 9 - 35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金広植	4. 巻 40
2. 論文標題 1960年前後の北朝鮮伝説「鹿足夫人」の受容と変容の様相-韓龍玉と高晶玉の研究を中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『淵民学志』	6. 最初と最後の頁 549-575
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金広植	4. 巻 39
2. 論文標題 金素雲の児童雑誌の発刊と朝鮮説話の収録様相の研究	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『淵民学志』	6. 最初と最後の頁 183-207
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金広植	4. 巻 77
2. 論文標題 「北朝鮮科学院機関誌『人民創作(口伝文学)』(1960-1962)の刊行と改作の様相 - 『口伝文学資料集(説話編)』(1964)との比較を中心に」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『冽上古典研究』	6. 最初と最後の頁 341-368
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金広植	4. 巻 77
2. 論文標題 「北朝鮮科学院機関誌『人民創作(口伝文学)』(1960-1962)の刊行と改作の様相 - 」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『近代書誌』	6. 最初と最後の頁 341-368
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金広植	4. 巻 51
2. 論文標題 「北朝鮮の社会科学院主体文学研究所が刊行した『面白い昔話』(全3巻)の改作様相の研究」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『民俗学研究』	6. 最初と最後の頁 245-270
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金広植	4. 巻 書籍の一部
2. 論文標題 「孫晋泰の『朝鮮民間説話の研究』と『朝鮮民族説話の研究』との比較研究」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『朝鮮民族説話の研究』	6. 最初と最後の頁 319-329
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田村和彦(宗暁蓮訳)	4. 巻 5
2. 論文標題 中国民俗学三十年(1978~2008) 以実地調査和民俗志為中心	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『遺産』	6. 最初と最後の頁 94~119
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田村和彦	4. 巻 9
2. 論文標題 中国陝西省農村部の葬儀の周辺に関与する人々に関する20年来の変化について 葬儀における飲食の提供と儀礼の司会を焦点として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『福岡大学研究部論集 F 推奨研究編』	6. 最初と最後の頁 3~11
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 周星	4. 巻 9巻3期
2. 論文標題 民俗語彙・地方性知識・本土人類学	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『社会学評論』	6. 最初と最後の頁 46~61
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 周星	4. 巻 4
2. 論文標題 中国民俗学著述的区域本位、民族本位与事象本位	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『中央民族大学学报』	6. 最初と最後の頁 24~32
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 周星	4. 巻 309
2. 論文標題 国民休日となった中秋節	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『日本民俗学』	6. 最初と最後の頁 186-200
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金広植	4. 巻 40
2. 論文標題 朝鮮民主主義人民共和国における説話集の刊行過程に関する考察 学友書房版『我が国の昔話』の発刊に至るまで	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『昔話伝説研究』	6. 最初と最後の頁 25 ~ 36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金広植	4. 巻 118号
2. 論文標題 韓国・朝鮮民俗学者宋錫夏における郷土芸術(民俗芸能)の展開	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『昔話伝説研究』	6. 最初と最後の頁 39 ~ 59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 金広植	4. 巻 75輯
2. 論文標題 在日朝鮮人の昔話絵本の活用 学友書房を中心に(原文タイトルはハングル)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『泐上古典研究』(韓国)	6. 最初と最後の頁 159 ~ 180
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計20件（うち招待講演 10件 / うち国際学会 9件）

1. 発表者名 田村和彦
2. 発表標題 教材(教科書)の検討からみた中国の大学教育における民俗学の一側面について 東アジアの民俗学的状況の考察に向けての初歩的作業として(2)
3. 学会等名 日本民俗学会年会第75回年会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田村和彦
2. 発表標題 日本の民俗学における教科書とその特徴と課題
3. 学会等名 比較民俗研究会第179回研究会「東アジアにおける民俗学教育の現状と課題;大学教育の教材を中心に」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田村和彦
2. 発表標題 日本民俗学的発展現状 - 対大学教材の考察
3. 学会等名 第十四届城市社会与文化論壇(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田村和彦
2. 発表標題 教材(教科書)の検討からみた日本の大学教育における民俗学の一側面について(1)
3. 学会等名 日本民俗学会年会第74回年会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 周星
2. 発表標題 為了東亜民俗学的『資料論』
3. 学会等名 一帯一路視域下的敦煌佛教民俗学國際學術研討会での開幕式基調講演（國際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 周星
2. 発表標題 追憶鐘敬文先生与中国民俗学会二三事
3. 学会等名 鐘敬文先生誕辰120周年紀念会兼鐘敬文学術思想國際シンポジウム(北京師範大学)（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 周星
2. 発表標題 日本現代民俗学の新境地
3. 学会等名 中華古典學術傳承創新(山東大学)（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 周星
2. 発表標題 『民俗』の体系化与『民俗学』の体系化 中国民俗学の教科書に関する分析
3. 学会等名 比較民俗研究会第179回研究会「東アジアにおける民俗学教育の現状と課題;大学教育の教材を中心に」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 周星
2. 発表標題 中式服装的歷史、当下及未来
3. 学会等名 設計学前沿講座(湖南師範大学) (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 周星
2. 発表標題 追問『幸福觀』的民俗学
3. 学会等名 華東師範大学民俗学研究所での講演 (招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 周星
2. 発表標題 生活方式变遷与民俗学
3. 学会等名 北京師範大学民俗学講座 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 周星
2. 発表標題 現代民俗学的方向
3. 学会等名 華東師範大学2022年度「都市社会と文化論壇」 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 周星
2. 発表標題 「『伝統文化』在現代日本社会的伝承与学校教育」
3. 学会等名 「2021年度日本社会調査（オンライン）」プロジェクト(愛知大学、北京外国語大学共催)（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 周星
2. 発表標題 「新型城鎮化、郷愁与民俗学的立場」
3. 学会等名 「山東大学「中華古典学术伝承創新」民俗学講座（招待講演）（国際学会）」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金広植
2. 発表標題 日本における口碑文学（口承文芸）研究に対する批判的検討
3. 学会等名 韓国口碑文学会冬季学术大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 金広植
2. 発表標題 学友書房と朝鮮青年社における朝鮮童話集・昔話集
3. 学会等名 2023年日韓共同学术会議（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 金広植
2. 発表標題 韓国における民俗学教材（教科書）の現況と課題
3. 学会等名 比較民俗研究会 第179回公開研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 金広植
2. 発表標題 在日朝鮮人の説話集(昔話集)とコンテンツ活用の可能性
3. 学会等名 湧上古典研究会103次 「アジアの古典文学 / 文化とコンテンツ」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金広植
2. 発表標題 「解放後における韓国・朝鮮説話研究の現況と課題」
3. 学会等名 第6回日韓共同学会議「自然・災害・感染症と民俗」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金広植
2. 発表標題 「COVID-19以降、日本地域における韓国人移住女性の現実問題」
3. 学会等名 安東大学校民俗学科2022年BK21国際学術大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 金広植	4. 発行年 2023年
2. 出版社 民俗苑(ソウル)	5. 総ページ数 208
3. 書名 パチンコの歴史民俗誌	

1. 著者名 周星、黄潔	4. 発行年 2024年
2. 出版社 風響社	5. 総ページ数 16
3. 書名 「第14章 文化遺産 遺産化の文化政治」(河合洋尚、奈良雅史、韓敏編『中国民族誌学』)	

1. 著者名 金広植	4. 発行年 2022年
2. 出版社 民俗苑(ソウル)	5. 総ページ数 303
3. 書名 『北朝鮮説話の新しい理解』	

1. 著者名 孫晋泰 (訳 金広植、鄭裕江、馬場英子)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 風響社	5. 総ページ数 389
3. 書名 翻訳出版『朝鮮民族説話の研究』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	周 星 (ZHOU Xing) (00329591)	神奈川大学・国際日本学部・教授 (32702)	
研究分担者	金 広植 (KIM Kwangsik) (20768080)	東京学芸大学・教育学部・研究員 (12604)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関